

第88回 健康公開講座

胃の病気になりやすい人、なりにくい人

～ 血液検査で胃の「健康度」がわかります ～

川崎医科大学 総合臨床医学

准教授 井上 和彦 先生

開催日：平成25年2月18日（月）午後7時～

会場：防府市地域交流センター

財団法人 防府消化器病センター 公益事業部

〒747-0801 山口県防府市駅南町14-33

TEL 0835-25-8707

http://www.hofu-icho.or.jp

今日の話のキーワード

ヘリコバクターピロリ (ピロリ菌)



2

2005年(平成17年)10月4日 火曜日

ノーベル 医学生理学賞 ピロリ菌発見者らに 豪の2氏 胃疾患と関与解明



スウェーデンのノーベル医学生理学賞は、今年、オーストラリアの2人、バリー・マーシャルとロビン・ウォレンに授けられた。彼らは、胃の病気とピロリ菌の関与を解明した。マーシャルは、胃酸を減らす薬を飲むと、胃酸が少なくなり、胃の粘膜が傷つき、炎症が起きると考えた。ウォレンは、胃酸が少なくなることで、胃の粘膜が傷つき、炎症が起きると考えた。彼らは、胃酸が少なくなることで、胃の粘膜が傷つき、炎症が起きると考えた。

バリー・マーシャルは、オーストラリアのシドニーに生まれ、医学博士。ロビン・ウォレンは、オーストラリアのメルボルンに生まれ、医学博士。彼らは、胃酸が少なくなることで、胃の粘膜が傷つき、炎症が起きると考えた。

3

Helicobacter pylori (ピロリ菌)

1983年WarrenとMarshall (オーストラリア)
により発見されたグラム陰性桿菌



2005年ノーベル医学生理学賞授賞

- * 慢性感染成立は幼小児期(4-5歳くらいまで)
- * 組織学的胃炎や胃粘膜萎縮の主因
- * 消化性潰瘍との強い関連
(除菌治療による潰瘍再発予防)
- * 胃がんとの関連
(胃がん発生の必要条件、除菌による胃がん発生率低下の期待)
- * 免疫性血小板減少症や蕁麻疹などとの関連

4



ピロリ菌感染(幼小児期)

あり

なし

胃粘膜炎症

十二指腸潰瘍
胃潰瘍
胃マALTリンパ腫
未分化型胃がん

炎症(-)
萎縮(-)

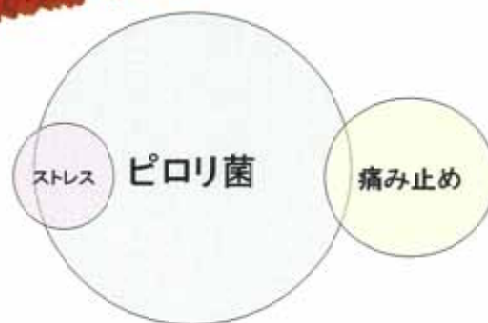
胃食道逆流症
機能性胃腸症

胃粘膜萎縮
(腸上皮化生を含む)

過形成性ポリープ
胃腺腫
分化型胃がん

5

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の原因



6

胃潰瘍・十二指腸潰瘍の最大の原因は
ピロリ菌であり、
感染を確認した上で除菌治療を行うことが
望まれる

- ・日本消化器病学会のガイドラインでも
推奨されている
- ・健康保険適用もあり

7

本邦における胃がんの罹患・死亡数

罹患数 年間約11万人
(全がんの19%、第1位)

死亡数 年間約5万人
(全がんの15%、
肺がんにつづいて第2位)

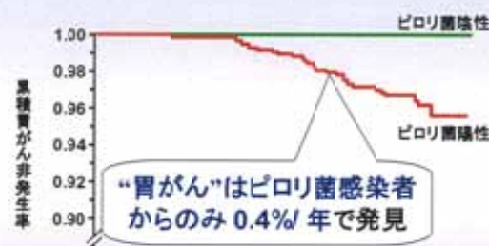
8

胃がんになりやすい人

- 塩分を多く摂る人
- 野菜をあまり食べない人
- たばこを吸う人
- ピロリ菌のいる人



ピロリ菌と胃がん発生



約10年間の経過観察で、
ピロリ菌陽性1246例から36例の胃がんが発生したが、
ピロリ菌陰性280例からは胃がんは1例も発生しなかった。

10

胃がんのリスクファクター

リスク要因		予防要因
確実なもの	ピロリ菌感染 喫煙	
ほぼ確実なもの	食塩、塩蔵食品	果物、野菜

ピロリ菌感染は必要条件

11

胃がん撲滅のため、敵を知る。

胃がん発生に**ピロリ菌感染**は
必要条件であり、
その中でも
進展した胃粘膜萎縮(胃の老化現象)は
高危険群である。

12

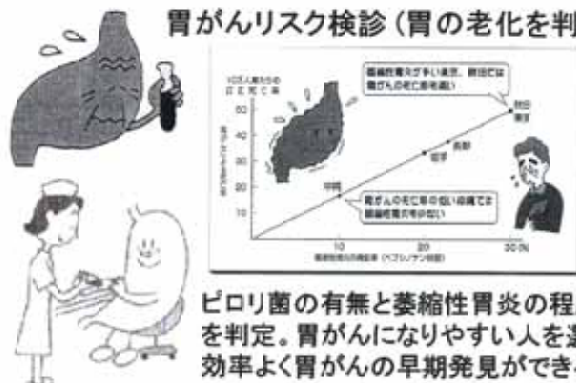
ピロリ菌の検査法

1. 内視鏡検査(胃カメラ)で生検を必要とするもの
 - 1) 培養法
 - 2) 鏡検法
 - 3) 迅速ウレアーゼ試験
2. 内視鏡検査(胃カメラ)を必要としないもの
 - 1) 血清抗体
 - 2) 尿中抗体
 - 3) 糞便中抗原
 - 4) 尿素呼気試験

13

血液検査で胃の健康度を推定できる

胃がんリスク検診(胃の老化を判定)



ピロリ菌の有無と萎縮性胃炎の程度
を判定。胃がんになりやすい人を選ぶ。
効率よく胃がんの早期発見ができる。



血清ピロリ菌抗体
(ピロリ菌感染状況)

血清ペプシノゲン法
(胃粘膜萎縮状況)



15

血液検査(ピロリ菌抗体とペプシノゲン)による 胃の健康度評価・胃がん危険度診断

- A群 ピロリ抗体(-) ペプシノゲン法(-)
- B群 ピロリ抗体(+) ペプシノゲン法(-)
- C群 ペプシノゲン法(+)

16

血液検査による胃の‘健康度’評価

A群



健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。ただし、逆流性食道炎に注意しましょう。

B群



少し弱った胃です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意しましょう。

C群



胃がんなどの病気になりやすいタイプ。内視鏡による定期的な検査を受け、胃の病気の早期発見・早期治療に努めましょう。

井上和彦 / Helicobacter research 1: 562-567, 2007

17

H. pylori 感染症の除菌治療適用疾患

胃潰瘍

十二指腸潰瘍

+

胃MALT

リンパ腫

早期胃がんに対する
内視鏡的治療後胃

特発性
血小板減少性
紫斑病

(2010年6月18日)

18

ピロリ菌除菌治療のメリット

- 胃潰瘍・十二指腸潰瘍の再発予防
- 胃マルトリンパ腫の改善
- 胃過形成性ポリープの縮小・消失
- 胃がん発生予防(期待)
- その他
(免疫性血小板減少症、慢性じんましの改善など)

19

ピロリ菌除菌治療のデメリット

- 除菌治療薬剤の副作用
薬疹(1%未満)
軟便・下痢などの便通変化(10%程度)(→出血性腸炎)
口内苦味感(数%)
- 除菌治療後の逆流性食道炎
内視鏡検査では10%弱
胸焼けなどの症状に対して内服必要になる人は1-2%
- 除菌治療後の体重増加
消化性潰瘍の人では約30%で体重増加

20

除菌治療を受ける人へ

- 除菌判定(除菌できたかどうか)は、必ず検査を受けて下さい。
- 除菌治療後も定期的な内視鏡検査(胃カメラ)は必要です。

21

病気の発生には背景があります

胃がん発生には**ピロリ菌**や**胃の老化現象**の関与が大きいと考えられています



血液検査により胃がんの危険度診断、言い換えれば、胃の‘健康度’評価が可能です

22

七つの健康的生活習慣

- ① 喫煙をしない
 - ② 毎日適度な運動をする
 - ③ 深酒をしない、または酒を飲まない
 - ④ 規則的に7~8時間の睡眠をとる
 - ⑤ 適正な体重を持続する
 - ⑥ 朝食をきちんと食べる
 - ⑦ 間食をしない
- 六項目以上守りましょう!

23